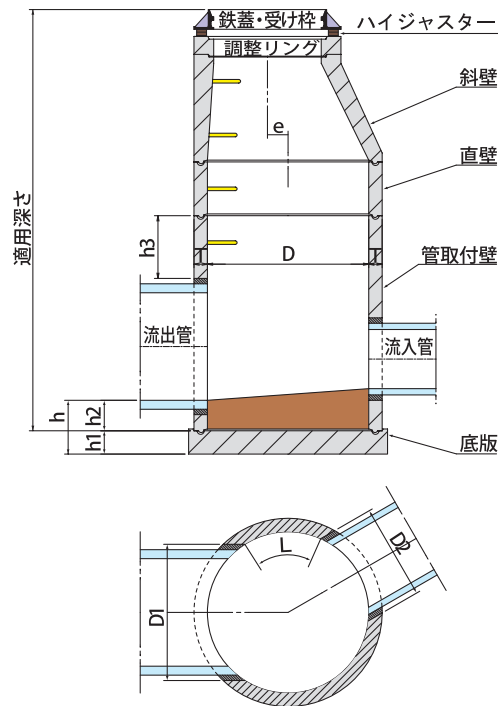


## 使用要領一覧表



製品使用範囲区別表

適用深さ	矢板の影響	管体の種類	使用製品の概要
5m以下	—	I種標準	標準型を使用する
10m以下	—	II種標準	壁厚さは変えないが、鉄筋量を約1.7倍増やした製品を使用する
5m以下	考慮する	I種特厚	壁厚さを約1.2倍、鉄筋量を約1.3倍増やした製品を使用する
10m以下	考慮する	II種特厚	壁厚さを約1.2倍、鉄筋量を約1.3倍増やした製品を使用する

注1. 使用製品の概要は、I種に対しての比較である。

基本寸法及び開口部関連寸法区別表

単位：mm

種別	内径	厚さ	偏心量	管底高	底板厚	インバート厚さ	削孔径	開口残り
	D	T	e	h	h1	h2	D1	L及びh3
0号 (φ750)	750	75	40	300以上	130	170以上	410以下	100以上
							586以下	150以上
1号 (φ900)	900	75	115	300以上	130	170以上	410以下	100以上
							644以下	150以上
2号 (φ1200)	1200	95	285 (265)	370以上	150	220以上	760以下	200以上
							464以下	100以上
3号 (φ1500)	1500	112	415	370以上	150	220以上	1002以下	200以上
							1150以下	250以上
							1346以下	260以上

注1. 2号マンホールのe寸法で ( ) の値は、直壁又は管取付壁の上に外径1390mmのスラブを連結してその上に1号マンホールを使用した場合である。

注2. 3号マンホールのe寸法の値は、直壁又は管取付壁の上に外径1724mmのスラブを連結して、その上に1号マンホールを使用した場合である。

注3. 開口の形状が角形の場合は、別途検討致します。